

■都市課題

人口減少・少子高齢化・地域経済縮小が進む荒尾市においては、「健康でいきいきとした暮らしをつくる」「医療・介護給付費の抑制」が課題としてあり、そのためには「市民の健康寿命の延伸」が必要である。

■解決方策

健康寿命の延伸のために、「健康的な生活習慣への行動変容」を促す「さりげないセンシングによるスマートヘルスケアサービス」を創出し普及させる。

■KPI

健康寿命の延伸(平均自立期間)
 男性: (R1)78.9年→(R7)79.5年
 女性: (R1)83.8年→(R7)84.4年
 ⇒健康的な生活への行動変容
 (健康習慣を継続的に実行している市民の割合)

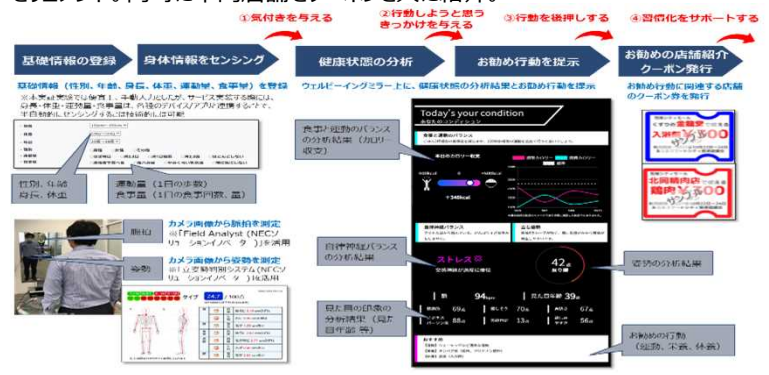
■実証実験の概要・目的

日常生活をさりげなくセンシングし、市民の健康状態の分析・可視化⇒行動・食事のリコmendを行うことで健康行動を促し、健康的な生活への行動変容を図ると同時に、市内のお勧め店紹介+クーポン発行により、市内店舗の利用を促し、地域経済の活性化に繋げる。本実証実験では、市民向け体験会を通して、行動変容の可能性(PoC)、技術の妥当性/成立性(PoT)、ビジネスとしての成立性(PoB)を検証する。

■実証実験の内容

A) 日常センシングによるダイエットマネジメント (ウェルビーイングミラー)

画像から脈拍/見た目印象/立姿勢を計測/分析。カロリー収支の入力結果踏まえお勧めの行動/食事をリコmend。同時に市内店舗をクーポンと共に紹介。



B) 歩行センシングによるウォーキング習慣促進 (歩行センサ/アプリ)

インソールセンサーで歩容を分析。



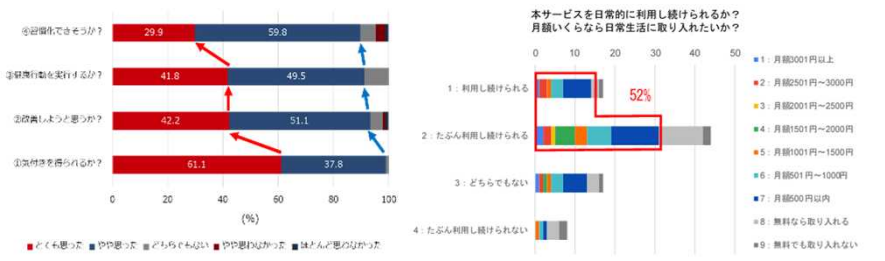
C) ビジネスパーソンへの心の健康管理 (感情分析センサ/アプリ)

腕時計型センサーで仕事中の感情を分析。



■実証実験で得られた成果・知見

- 市民に体験してもらった実験(のべ164名参加)を通して、いずれのサービスも健康的な生活習慣への行動変容に寄与する可能性は十分あることを確認。(A:89%、B:84%、C:27%が習慣化できると回答)
- また市民から利用料を得られる可能性もあり、一定の利用者数を獲得できれば独立した事業として成立する可能性も見出せた。(A:52%、B:42%が有料でも使い続けられると回答)



■今後の予定

2023年度からの段階的実装を目指し、2022年度はビジネススキーム具体化のための実証実験を行う

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
さりげないセンシングによるスマートヘルスケアサービス		実証実験 (受容性確認)	実証実験 (PoC/PoT/PoB)	南新地ウェルネス拠点 街びらき ▼ ビジネススキーム具体化するための実証実験	段階的に実装